

たんちよう

HSK

編集／釧路地方腎友会

No. 126
4月号



【目次】

シャント —— 医療改定にみるー負担・不安・不可解さについて ——	1
道腎協ブロック会議報告	2
全腎協実行委報告	3
睡眠中に自動腹膜透析～ある新聞の記事より～	4
短歌コーナー —— 植木登歌集より	5
おいしいお店	6
クロスワードクイズ・当選者	7
会員の動向	8
編集後記	9

医療費改定にみる—負担・不安・不可解—さについて

平成4年4月1日から改定実施された保険単価（医療機関に支払われる治療費のこと）によると、全腎協が取り組んできた、介護を必要とする患者への対応として、二・六%が引き上げられることになつた。これは全腎協の思惑通りの成果であり、私達患者にとっては喜ばしいことと言える。

又、腎臓移植関係、CAPD関係については増額されているのに対し、人工透析関係にあつては食事加算（六二一点→六三点）があるだけで、四時間未満透析、四時間以上透析ともに据え置きの状態に置かれている。

今回の改定の問題点は、血液検査や生化学検査などの検査料が定額制へ検査を何度も実施しても、一定の額を月に一度しか算定（請求）できない仕組み一が導入されたことである。

このことは、検査回数が減らされたり、病状の悪化や合併症の発見が遅れたりと、いう弊害を招くことになりかねない。

このことから、厚生省の政策には、何かしら「負担」「不安」「不可解」なものが感じられてならないのである。腎臓移植関連の単価引き上げに付いてみても、ドナー確保のための手立てやコーディネーター養成及び増員の施策が充分でなければ成果は上がらない。

CAPD関連についても、現状では不安が多く、そのために実施に踏み切れない人が多いと思われる。せめて液の交換回数が1~2回程度になるように、研究の分野に力を入れてくれるような施策を講じてほしいのである。

これらの問題については、何よりも患者の声が厚生省に大きく届かなければ、いつまでたっても改善される見通しは生れない。だから地方腎友会を通して患者同志が団結し、強い力を道腎協、全腎協に発展させ、切実な声として厚生省に届くように努力していかなければならぬと思うのである。

幸いなことに、「入会のしおり」や腎

友会の必要性について理解してもらえた
めの資料を、非会員に配布した結果、数
名の方々より入会の希望があつた。

非会員の方々には、腎友会の必要性を
充分認識してほしいし、同じ患者同志、
一人の力は弱くても、たくさんまとまれ
ばまとまるほど大きな力になることを自
覚して、団結の輪を広める力になってほ
しいと思うのである。



ブロック会議報告

四月二十五日～二十六日の二日間、北海道難病センターにおいてブロック会議が開催されました。（札幌） 鈴路から上田弘相談役、橋本事務局長が参加しました。

た。その中では、診療報酬の問題、特に検査料が一律二万四千六百点になつたことに対する今後の対応が気になるところでした。また、移植者の会が昨年十月から発足したということです。最後に、全腎協の公益法人化についての説明がありました。

・国会請願報告

北海道からは、広岡達雄副会長と鈴木

春美（深川）、白岩政春（道南）の三氏会員に対し、黙祷を捧げました。

次に、岩崎薰会長が、全国総会の進行状況などを話されました。

【報告事項】

・各ブロック活動報告

道内二十一ブロックから昨年十月から今年の三月まで活動について説明がなされました。その中では、苦小牧ブロックから非会員が会員に対しやめるように足を引っぱる人たちがいて困っているとのことでした。また、深川では役員の意見が合わず苦労していると報告していました。また、

・全腎協幹事会報告

佐藤利國（室蘭）全腎協幹事が三月十四日～十五日の二日間、東京中野サンプラザにおいて参加した内容を報告しました。

・全腎協の公益法人化問題
透析患者数は全国で十万人を越え、医学的対応と社会対策の需要は一層高まると思われるのに対応するため、全腎協を法人化にするという方針を決め、準備に入つたそうです。法人化にしたら、いゝたいとなるのか？

法人になつたら、公益を追求する団体となる。役職名が変わる（例：運営委員が評議委員）。地方の会員は、団体の一員として加入する。などなど。
道腎協でも詳しいことは分からぬのでもう少し詳しく調べてから報告するとのことでした。

【討議事項】

・道腎協の総会は全国大会の関係で七月に変更されました。

・平成三年度活動報告、決算報告、会計監査報告、平成4年度活動方針案・会計予算案とそれぞれ提案され、拍手で承認されました。

【低リンミルク紹介】

・会議が終わってから、森永の栄養士さんが低リンミルクで作れるメニユウの紹介をしてくれました。
カリウムとリンは牛乳よりかなり低くタンパクやカルシウム、鉄分が高いので是非飲んでくださいと紹介してくれました。会場では、低リンミルクを使ったアメが配られました。私も一口食べてみましたが、マツタリしておいしいアメでした。皆さんも低リンミルクを試飲してみてはどうでしょうか。

（報告 橋本）

書協第二十三回総会

第二回

実行委員会報告

・総会受付 上田弘相談役
・来賓案内 橋本巖
・総会会場内の案内

掛札 金井 英雄 聖 東 哲司
佐藤 信洋

定山渓行きのバスが出ています。
乗客がたくさんいる時は、増便してください。
札幌一定山渓間・七百二十円

平成4年4月5日、日曜日午前9時から札幌難病センターにおいて、二回目の実行委員会が開催されましたので、ご報告致します。

○総会の概要

・五月二十四日、九時半～十五時半まで

・札幌市教育文化会館

・全体会議と分科会

○分科会の概要

・同日十二時半～十五時十五分まで

・分科会テーマ（予定）

一 透析医療と供給体制（大ホール）

二 胃移植と脳死問題（小ホール）

三 CAPD普及と問題点（講堂）

四 要介護者問題への対応（会議室）

五 就労と所得保障（中研修室）

六 これから会活動（講堂）

○その他

○展示・販売予定

- ・マクトン・クッキ！
- ・かき玉ラーメン
- ・インターネット・ネンタルメデカルサービス（ハワイの透析施設）
- ・セルリーハイ
- ・森永

○救護室は

分科会館地下練習室Aですので
参加者の方は覚えておきましょう。

○準備事項（鉄路関係分）

宿舎：札幌定山渓ホテル七百五十人
当手伝い者の報告

について
汽車で行く方は、札幌駅で下りてから、
そこからデパートの地下から通つていくと



潮流



夜間の睡眠中に透析治療ができる自動腹膜透析（Automatic Peritoneal Dialysis, APD）システムは、極めて便利なシステムとして注目されそうです。

このシステムは、サイクリーと呼ばれるコンピューター制御装置が、透析液を自動的に交換する仕組みです。患者さんはCAPD（持続性可動的腹膜透析法）と同様、あらかじめ手術でカテーテルを腹壁に埋め込んでおきます。そして夜寝る前にカテーテルと装置をつなぎ、システムをセットします。あとは寝ている間に一時間一サイクルのベースで、透析液が自動的に交換されます。米国では透析治療を受ける人が学で昼間忙しいという方には、極めて便利なシステムとして注目されそうです。

APD（持続性可動的腹膜透析法）と同様、あらかじめ手術でカテーテルを腹壁に埋め込んでおきます。そして夜寝る前にカテーテルと装置をつなぎ、システムをセットします。あとは寝ている間に一時間一サイクルのベースで、透析液が自動的に交換されます。米国では透析治療を受ける人が学で昼間忙しいとい

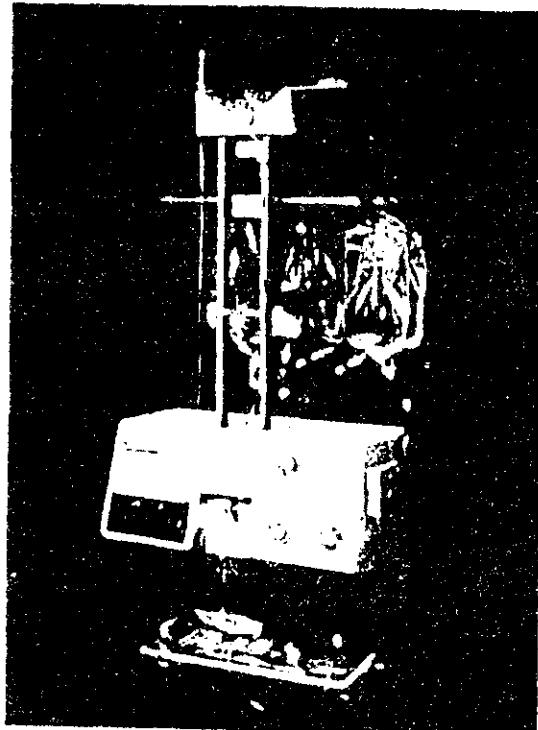
うのが、患者さんの希望になると思います。ほとんどの人が一晩に六回程度、透析液の交換をしており、なかなか好評だというところです。

北里大学医学部腎センターの酒井教授によると、治療効果はCAPDを若干上回ります。透析治療を受けている患者さんで

血液中の老廃物の一一種である尿素窒素やクレアチニンの量が多く、治療ではこれを除くわけですが、APDではその効率がCAPDよりも二割いいそうです。

「医学上の治療の質もいいし、社会復帰つまりクリアーチャンスも大きい。装置は静かで睡眠を妨げられない。装置は静かで睡眠を妨げられない」ということもありませんから、日本でもこれから徐々に増えていくのではないか」と酒井教授は話しています。

ただひとつ問題なのは、装置の価格が一台約三百万円と非常に高いこと。米国では病院やメドカルクリニックとしており、我が国でも同じやうになりそうですか。その場合、リース代は月々三万円程度が見込まれます。もう少しメドカルさんに頑張ってもらいたいというのだが、患者さんの希望になることを思います。



社会復帰に有効システム 睡眠中に自動腹膜透析・APD

このシステムは、サイクリーと呼ばれるコンピューター制御装置が、透析液を自動的に交換する仕組みです。患者さんはCAPD（持続性可動的腹膜透析法）と同様、あらかじめ手術でカテーテルを腹壁に埋め込んでおきます。そして夜寝る前にカテーテルと装置をつなぎ、システムをセットします。あとは寝ている間に一時間一サイクルのベースで、透析液が自動的に交換されます。米国では透析治療を受ける人が学で昼間忙しいとい

うのが、患者さんの希望になることを思います。

十月から発売が許可されたAPDシステム

短歌

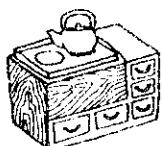
コーナー

「果物と野菜はカリューム
増えるから少しだけでー
と遠慮もつらい」

『血のもれた腕を冷やして
透析を続ける夜の
秋の深まり』

『足もんでー。つってきたよ。と
緊張の糸引く声が
部屋つきぬける』

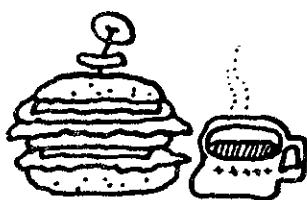
『透析はただでできると
うそぶいて腎友会に
背を向ける人』



『腎キャンペーン終えて駅ビル
食堂に笑顔よせあう
ひとときがある』

『透析をしていて旅行ができるのか。
友の疑問に笑顔で返す』

『透析の身も忘れてた
能登の旅思いで一つ
つさたしてくる』



今回紹介する短歌は、茨城県土浦市で透析をしながら家業の酒店を営んでいる植木登さんが、透析導入から現在に至るまでのさまざまな気持ちを綴ったものです。皆さんも共鳴できるところがたくさんあると思います。

『歌集・透析のうた植木登著』

日本歌謡芸術協会刊より

『ああこれが透析ということなのか
血の管を見る刺し針を見る』

『ベット』と透析室に運ばれる
我を見送るあわれみの日が』

『歩けたのかけよってくる看護婦の
笑顔が強く生きると語る』

『暑い日はビールの売上げ気になつて
透析している日暮れのあせり』

おいし

お店

今回紹介するお店は、

屋台の「こぐまラーメン」です。

営業開始は、昭和五十二年。定休日は決まっていません。それは、雨、雪、風などの天候によって営業が左右されるからです。カップ麺が必要な天気のときは休みになっています。

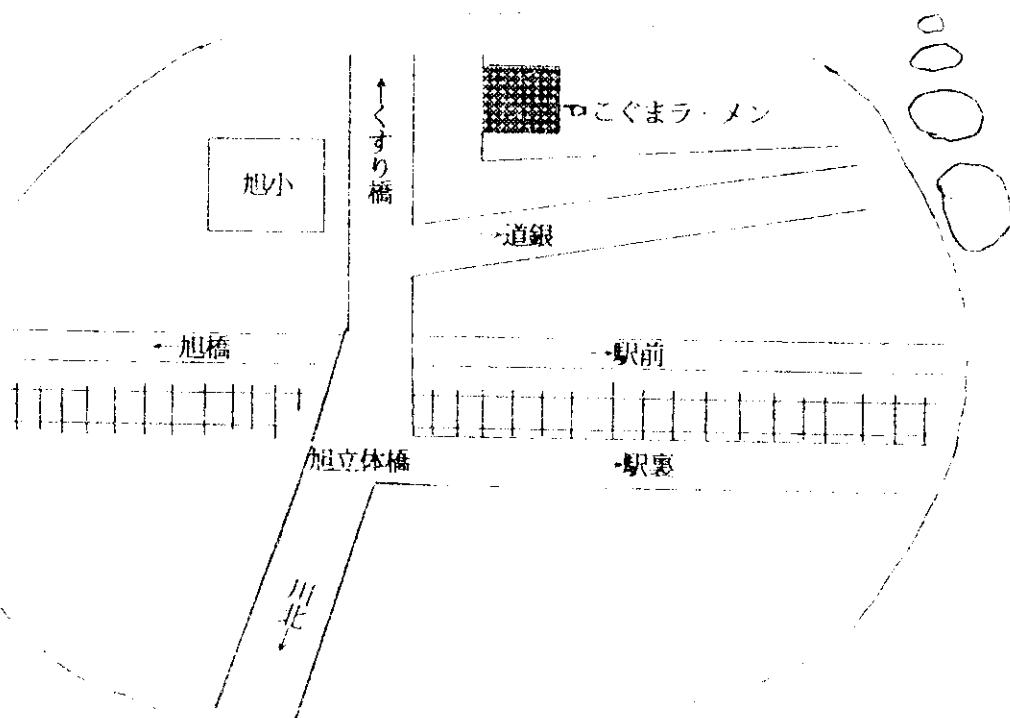
店内は食卓テーブル一つに椅子が八つほどあります。テントの中は、テレビ、ラジオ、石油ストーブがあり、とってもリッチです。照明は、はだか電球で雰囲気を盛り上げています。

ラーメンは、塩、しょうゆ、みその三種類だけで勝負しており、作るのはおじさん一人でキリモリしています。

また、薄味にしてくれるので本当にありがたいです。車も五台ほど駐車でき、仲間内では「橋の下」と言つただけでわかれます。

営業時間 PM八時～AM四時ころ。

住所 銀河市川上町一一十

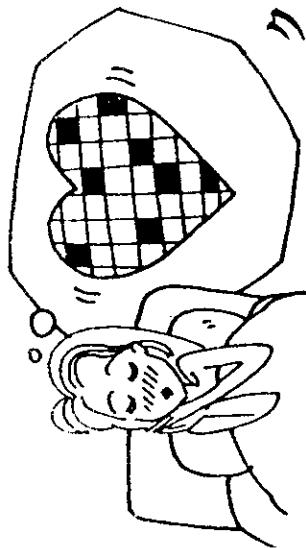


事務所の電話番号が変わりました。

釧路地方腎友会事務局にて用のときはこの番号でお願いします。

2 3 - 6 6 8 7

ラブ・ラブ
ロバフード



シム
すばらしく
思い出が……。



- ④田原くわいの山 H25-10
—山脚のトキワガシ林
103°

⑤慈寧閣隕石 H26-9 —
ミナミ出雲町の隕石。

⑥長田柳ヶ森山 — ⑦鶴。
⑧根ヶ原山の松並木 H26
— 104°

⑨白波山 部屋山 H26
⑩新八郎山 桧。

⑪近畿日本鉄道の「近畿急便」
— 佐世保駅周辺を走る
105°

⑫兵庫山 岐阜山の岐阜市内
錦町。

⑬川口山 — 逆富士山と呼
ばれる。

⑭山形山 — 逆富士山と呼
ばれる。

⑮御岳銀山 — おゆたか山と
呼ばれる。



- ④中八戸市立の日田川緑道
カトヨウタガタの風景写真。

⑤東洋GK 8—西60°

⑥要長崎出張所北、カムイ
八世——女修業。

⑦秋田口カミツの脚踏木だらけ
脚踏木掛くは長トコ。

⑧銀葉田、1月如尺田が見下す
ハセキラ咲10°。

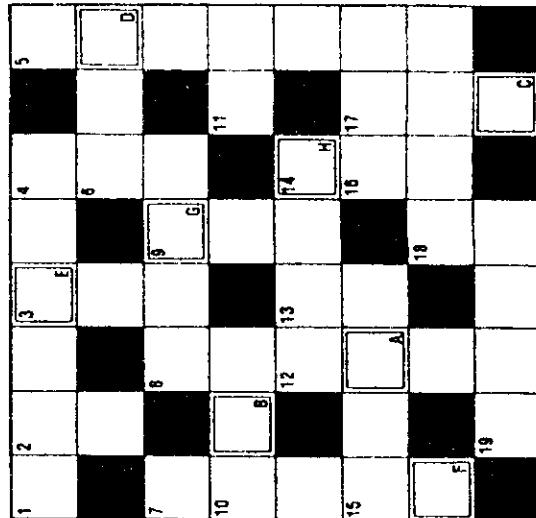
⑨1月一ノハナハクモクハ根元ハ
中空——細胞。

⑩一ノハナハクモクの根。

⑪花序の底から下へ下枝へ
Q—。

⑫花序の初花——白麻葉。左
右も同じ花序。

⑬葉の下部葉——花葉を以て
160度に開閉する。



◎下記の応募用紙、又は葉書に答えを
記入し、正規の郵便にて、本部に提出して下さい。
正規の郵便にて、本部に提出して下さい。

答
子

111

2月15日

卷之三

۱۷

晋選當林林林市市市市岸
少少少少少少少少
天子子子工子男郎
敏三喜奈光久平幸
美美美美美美美美
谷原馬村本嶋島田山
口波菅対木坂吉小山水

【会員の動向】

【新患者】

佐藤 圭司

釧路市

和賀 芳彦

釧路町

加藤 幸子

釧路町

五十嵐 悟

釧路市

【新会員】

和賀 芳彦 (市立) 平成4年4月から

加藤 幸子 (市立) 平成4年4月から

佐藤 圭司 (市立) 平成4年4月から

渡辺 尊志 (協会) 平成4年4月から

田村 清二 (林田) 平成4年4月から

【おくやみ】

藤原 ミホ (日赤) 平成4年3月2日

下村 シズ子 (市立) 平成4年3月4日

斎藤 久子 (日赤) 平成4年4月8日



原稿大募集

釧路地方腎友会が発足以来15年以上継続しているみんなの機関紙「たんちょう」！！！
お気軽に原稿をお寄せください。

誰でも！何でも！気軽にお寄せください！！

たんちょう編集部

待ってます！！！！



昭和十八年二月十二日
主婦の立場
日本婦人会連合会
北日本婦人会連合会
会員登録

JSK ななこ

編集後記

会員の皆さん、まずは、「たんちょう」4月号発行が遅れて申しわけありません。編集委員一同、心からお詫びいたします。

言い訳になってしまいますが、2月から3月4月と、編集委員7名が全く活動できない状態が続き、原稿が集まらなかつたのがその理由です。15年以上、続いているこの機関紙をなんとか守っていきたいと考えているのですが原稿がないことにはどうしようもありません。

総会のなかで、年4回の発行にしたいという提案をし、承認されました。ただ、ある会員の方から「一枚物でもいいから情報を流してほしい。妻も楽しみにしているので。」という意見が出されました。

これから、皆さんのご要望に答えるように編集委員一同一生懸命活動いたしますので、皆さんも投稿をお願いいたします。

みんなの「たんちょう」みんなの手で続けよう！！